

平成29年(2017) 日刊26796号

産経新聞

8|5 [土]

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN

発行所 ©産業経済新聞大阪本社 2017
〒556-8660 大阪市浪速区湊町2-1-57
☎ 大阪(06)6633-1221(大代表)

Human & Heart
「心」と「体」を大切にする大学。

大阪大谷大学


薬学部(6年制)・文学部・教育学部・人間社会学部

お問い合わせ/入試広報課 | 大阪府富田林市錦織北3-11-1 TEL.0721(24)1031

オープンキャンパス 8/26(土)・27(日) 10/1(日) プレ入試実施
(開催時間)10:30~15:30 ●受付はいつでも10:00~15:00

●詳しい情報は... 大阪大谷大学薬学部生協ウェブサイト
受験生応援サイト **club oh!** CLUB oh! 大谷 検索

薬学部 卒業生リレーインタビュー① ※全3回



患者さんと向き合い、自分も日々成長 夢は緩和ケア専門の薬剤師に

どんな業務に従事していますか

薬剤師になって4年。入院患者さんの飲み薬や注射薬の調剤やチーム医療の一人として業務を行っております。特に2種類以上の注射薬を混ぜ合わせる時は配合変化が起こらないか、細心の注意を払います。白濁して薬が管に詰まったり、効果が薄まる可能性があれば、事前にドクターに伝えて注意を促す「疑義照会」も重要な役目。今年から新たに抗がん剤のミキシングの監査も任せられ、責任の重さを痛感する毎日です。

やりがいを感じる時は

患者さんへの服薬指導をするときです。常に「お変わりないですか」の声をかけ実践し、積極的なコミュニケーションを心がけています。実は人と接するのが苦手でしたが、患者さんと日々向き合うなかで自分自身も成長でき、薬剤師になって本当によかったと実感しています。現場はまだまだ知らないことばかり。休日でもできる限り学会やセミナーに出向き、業の知識を貪欲に吸収しています。

平成26年3月卒業 薬学部薬学科3期生
医療法人南労会紀和病院(和歌山県橋本市) 薬剤部勤務

岡 隆志さん(28)

中学校・高等学校 / 東大谷高等学校 / 大谷幼稚園

薬剤師を目指すきっかけは

国家資格を取りたいという漠然とした理由で薬学部を選びましたが、大学で疼痛治療において緩和ケアを学ぶうち、本気で薬剤師になりたいと思うようになりました。卒業研究も「緩和ケアの鎮痛剤と他の薬剤の配合変化」をテーマに選びました。現在の病院に就職を決めたのも、関西ではまだ少ない緩和ケア病棟があったから。大学時代の学びがいまの職場の業務にも大いに役立っています。

大阪大谷大学の魅力は？

国家試験という同じゴールに向かって学生同士、切磋琢磨できる環境が整っていることですね。5年次から始まるゼミでは一緒に過去問題を解き合い、有馬温泉へのゼミ旅行も思い出です。私にとってかけがえのない一生の仲間。みな薬剤師として活躍しており、いままも定期的に懇親を深めています。就職の進路に悩んだとき、ゼミ教員から「チーム医療が学べる」と病院を勧められ、自分の人生を決めることができました。先生にも感謝の思いでいっぱいです。

薬剤師を目指すひとへのメッセージを

自分はどんな薬剤師になりたいのか、そのイメージをはっきりと形にすることが大切です。私は今年4月に公認スポーツファーマシストの資格も取りました。これはドーピング防止の情報をプロの競技者に提供する仕事で、薬剤師免許があつて所定の課程を修めれば、取得できます。将来は緩和ケア専門の認定薬剤師になるのが夢です。

学校法人 大谷学園 学園本部(大阪市阿倍野区共立通2-8-4 TEL.06-6661-0381(代)) 大阪大谷大学・大学院 / 大谷